様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：１２６０６
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ００６３５

研究課題名（和文）山田流箏曲及び地歌箏曲における稀曲の研究

研究課題名（英文）Study on rare songs of the Yamada school koto music and Juta Sokyoku

研究代表者
萩岡　松韻（Hagioka, Shouin）

東京藝術大学・音楽学部・教授

研究者番号：３０３７６９２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、古曲や稀曲・秘曲とされる次代への伝承が危ぶまれている山田流箏曲及び地歌箏曲の貴重な楽曲を調査し、それらを次代へとつなぐ伝承の一助となることを目的として研究を行なった。研究成果として、①従来の目録の整理と修正し廃絶曲も含む山田流箏曲及び地歌箏曲の楽曲目録を作成、②山田流箏曲及び地歌箏曲の現行曲の目録を作成、③山田流箏曲及び地歌箏曲に関する文献資料の収集、④流派・芸系による伝承の異同の調査、⑤伝承者へのインタビュー、⑥現行曲に関する音源収集とアーカイブ化、⑦稀曲による公演の開催、⑧ＳＰレコードによる歴史的音源コンサートを通じて過去の演奏と現在の演奏との異同についての検証の8点を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の対象である山田流箏曲及び地歌箏曲の稀曲については、公開演奏はおろか伝承も危機的状況で、次代への継承が危ぶまれており、学術的な研究は行われているものの、演奏を伴う研究は十分ではない。本研究は公開演奏を行うことで、伝承を次代へつなぐことだけでなく広く国民に周知することができるのではないかと考えた。研究を通して楽曲目録の再作成を行い、稀曲による公演の開催および歴史的音源（ＳＰレコード）による公演の開催という「演奏を伴う研究」を行ったことで、伝承を次代へつなぐことだけでなく広く国民に周知することができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate the precious musical pieces of the Yamada-School Koto music and Juta Sokyoku, which are considered to be classical, rare or little-known, and are in danger of not being conveyed to the next generation, as to help pass them on to future generations. The findings and results of this study are as follows.1.Amended the current catalogue of the Yamada-School of koto music, adding new pieces including discontinued ones and Jiuta pieces. 2.Made catalogues. 3.Collected documents of Yamada-School Koto and Juta Sokyoku. 4.Investigated the differences in the traditions of different schools and art forms. 5.Interviewed the masters of the tradition who pass it on to the next generation. 6.Collected and archived recordings of current music. 7.Organised performances that include rare songs. 8.Examined the differences between performances of the past and the present through a concert of historical recordings via SP records.

研究分野：芸術実践論

キーワード：箏曲　地歌　山田流　生田流　伝承　アーカイブ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

これまで箏曲の楽譜は、その芸系の家元が学習者の学習および暗記の手助けのために出版してきた。また、楽曲を録音した音源等も学習者の模範演奏となるよう、芸系の家元をはじめとして多くの実演家がおこなっている。従って「直接習うことで細部の演奏表現が理解できる」という性格を持つ。

また、出版されている楽曲の多くには稀曲・秘曲といわれている曲はほとんど含まれておらず、同時に、そうした曲を伝承している実演家の高齢化により伝承そのものが危ぶまれている。

出版され販売される古典の楽譜がある一方で、微妙なニュアンスを記すことが難しい古典曲について、その伝承の正当性を知るのは、伝承者に直接習い記録をすることであろう。今後、ますます楽譜にのみ頼り演奏されていくであろう古典作品のあり方について、伝承者は危惧をもっている。

本研究においては、過去に記録された音源の収集、出版された楽譜、未公刊の楽譜の収集を行い、加えて伝承者に直接指導を受けることで、伝承の正確さ、正当性を明らかにし、次代へと繋いでいくことができるのではないかという仮説のもので研究を進めていった。

２．研究の目的

本研究の目的は、以下の４点に集約される。

（ア）音源の収集及び楽譜化

主に首都圏で活動している山田流箏曲家が伝える「古曲」等の稀曲について楽曲を収集する。加えて、関西及び名古屋エリアの生田流箏曲家への聞き取り調査を行い、楽曲目録の作成を行うこと。

（イ）楽曲の可視化と記録

伝承者の演奏を録音保存し、若手実演家にレッスンを受けさせる。楽譜化に際しての微妙なニュアンスを記録すること。

（ウ）貴重な古曲を次代へ繋ぐために公開講習を開催する

上記（１）及び（２）で得た情報及び指導を受けた演奏家の成果を元にして、次代を担う若手演奏家を主な対象として公開講習を開催し指導を行うこと。

（エ）上記（ア）～（ウ）の成果に基づいて、稀曲・秘曲として伝わる山田流箏曲の稀曲について、弦名譜での楽譜化を行うこと。

上記の４点は、伝承者に直接指導を受けなくては本質的な部分を習うことができない箏曲界においてはこれまで本研究チーム以外に成し得なかったことであり、これまでの研究では膨大な伝承の極一部のみを可視化と記録しただけである。また、高齢となっている各芸系の伝承者に芸談を聞くことは、貴重な音楽文化を記録保存することにもつながるが、数度のインタビューでは明らかにできない部分もあり、今後の山田流箏曲および地歌箏曲の古典演奏研究において学術および演奏の上でも意義あることであると考えた。

３．研究の方法

本研究は、①文献調査による山田流箏曲及び地歌箏曲の現行伝承曲の目録および楽曲解説の作成、②アクションリサーチにより実際に楽曲の伝承者にレッスンを受け演奏と指導の様子の記録及び曲に関連した貴重レコード・音源・楽譜の収集楽曲のアーカイブ（音源化・楽譜化）、③公開講習により次代を担う若手演奏家への指導を行い楽曲の伝授を通した演奏研究、④山田流箏曲及び地歌箏曲の古曲の楽譜化と録音（SP レコード、放送、ライブ録音など）等を収集し楽曲のアーカイブ、⑤成果発表会（演奏研究）を開催し演奏の記録によって研究を進めた。

これまで山田流箏曲及び地歌箏曲における古典曲の楽譜は、その多くが大日本家庭音楽会、博信堂などの楽譜出版社によって楽譜化がされているが、芸系の特徴的な細かな歌の節付けなど細かい部分の記譜について省略されている。また、稀曲・秘曲といわれる曲や小品については曲の持つ性格上楽譜化されていないものが多く存在する。研究代表者、研究分担者は、こうした曲の一部を楽譜化し音源化しているが、まだまだ一部であり、中には今伝承を受けないと絶えてしまう稀曲も存在する。山田流箏曲及び地歌箏曲は本来楽譜による伝承を行なって来なかった音楽であり、微妙なニュアンスは実際に伝承者にレッスンを受ける事で汲みとれるものである。ところで、すでに故人となった演奏家の演奏（CBS ソニー、ビクター音産、日本伝統音楽振興財団等）や芸談（雑誌『三曲』、藤田鈴朗等）はいくつか残されているものの、その衣鉢を継いだ現在最高齢の演奏家については、十分な研究は行われていない。

また、山田流箏曲及び地歌箏曲の稀曲については、公開演奏はおろか伝承も危機的状況で、次代への継承が危ぶまれており、学術的な研究は行われているものの、演奏を伴う研究は十分ではない。本研究は公開演奏を行うことで、伝承を次代へつなぐことだけでなく広く国民に周知することができるのではないかと考え研究を行った。

４．研究成果

山田流箏曲及び地歌箏曲（地歌三弦曲、生田流箏曲）は、多種多様なレパートリーを、さまざまな曲種に分類して現在に伝えている。地歌三弦曲の曲種には、三味線組歌、長歌物、端歌物、手事物、芝居歌物、浄瑠璃物（半太夫物、繁太夫物など）、作物、謡い物などがあり、山田流および生田流が伝える曲種には、箏組歌、段物、地歌系箏曲、山田流箏曲、幕末新箏曲、明治新曲などがある。また、新日本音楽、現代邦楽などと称される近代に生まれたレパートリーもある。これら多岐にわたるレパートリーに含まれる現行曲の曲数は、流派・芸系によって異なり、同じ楽曲であっても、芸系によって歌詞や旋律に異同が見られる。また、「古曲」「秘曲」「稀曲」などと称して次代への伝承が危ぶまれている楽曲（以下では「稀曲」と総称）も少なくない。貴重な伝承を次代に伝えていくための調査・研究が必要である。

本研究では、山田流箏曲及び地歌箏曲の現行曲について、次の手順で調査を行うことにした。①廃絶曲も含む山田流箏曲及び地歌箏曲の楽曲目録作成（従来の目録の整理と修正）、②山田流箏曲及び地歌箏曲の現行曲の目録作成、③山田流箏曲及び地歌箏曲に関する文献資料の収集（歌本、譜本、芸談など）、④流派・芸系による伝承の異同の調査、⑤伝承者へのインタビュー、⑥現行曲に関する音源収集とアーカイブ化、⑦稀曲による公演の開催、⑧歴史的音源（ＳＰレコード）による公演の開催。

このうち①については、③で収集した情報に基づき、従来の研究の一部に修正を加えた。②の目録作成は、③④⑤⑥に基づいて行うものであるが、現時点では、仮作成の段階にある。

地歌箏曲には多くの流派・芸系があり、それぞれの特徴を保持するために、やや閉鎖的に伝承を行っている。そのため、④⑤に基づく実態調査を網羅的に行いにくい状況がある。とくに⑤については、コロナ禍の影響もあり、計画通りに行うことはできなかった。④⑤⑥を通して地道な情報収集を重ね、目録を完成させることを今後の研究の課題としたい。

山田流箏曲については、江戸時代の歌本・譜本類、『山田流箏歌八葉集』（箏曲八葉会、大正 15・1926。以下、『八葉集』と略記）、『山田流箏曲史』（山田流箏曲協会、昭和 48・1973）の記載に基づいて目録を作成した。『八葉集』には替歌を含めて 285 曲の歌詞が収録され、曲種は、「組歌」「初学曲（「曲」は「もの」と読む。以下同様）」「裏歌曲」「中歌曲」「中手事曲」「奥歌曲」「奥手事曲」「京歌曲」「浄瑠璃曲」「古曲」「新曲」に分類されている。いっぽう、『山田流箏曲史』には、『八葉集』への追加情報が紹介されている。しかし、両書ともに出版から年数が経過しているため、記載内容と現行伝承には一致しない部分がある。たとえば『八葉集』の「古曲」のうち《葉隠》《竹いかだ》《かさのうち》の３曲は廃絶している。また、山田流で演奏する地歌系箏曲の楽曲名については、『八葉集』には「中手事曲」「奥手事曲」「京歌曲」という分類名で、『山田流箏曲史』には「地歌移曲物」という分類名で紹介されているが、現行の伝承と一致しない部分がある。こうした状況を鑑みて、両書の記載内容と現行との異同を確認し検証した。

⑥については、楽曲の楽譜化の他、ＳＰレコード、ＬＰレコード、オープンリールなどを収集し、活用の便を考えて、デジタル化するなどのアーカイブを行った。オープンリールは、故岸辺成雄氏所蔵の 108 本と大間隆之氏所蔵の 86 本を対象とした。膨大な量であるため、現時点では整理の途上にあるが、録音内容を確認して目録を作成し、デジタル化の作業を進めた。対象のオープンリールには、演奏会の録音や放送録音、故人となった名人の演奏などの貴重な音源が含まれている。また、前者のオープンリールには、古代楽器に関する昭和 20 年代の調査録音、昭和 30 年代の民俗芸能調査の録音、海外公演の録音も含まれている。アーカイブの作業は今後も継続して行う予定である。【図１】は楽譜化の例（横書き弦名譜）である。

⑦については、演奏機会が減っている稀曲を伝えていくために、東京藝術大学の球形ホールにおいて、次に示す４回の公演を実施した。⑴萩岡松韻の世界～古曲を聴くⅡ～（平成 30 年 11 月 11 日）、⑵萩岡松韻の世界～古曲を聴くⅢ～（平成 31 年 3 月 22 日）、⑶萩岡松韻の世界～古曲を聴くⅣ～（令和元年 8 月 4 日）、⑷萩岡松韻の世界～古曲を聴くⅤ～（令和元年 11 月 3 日）。これらの公演では、稀曲となっている山田検校作曲《明烏》《曲水》《夏やせ》《花暦》《花妻》《播磨八景》《芙蓉峰》《布袋》《めぐり逢せ》《弓八幡》、初世山登松和作曲《新七草》《初若菜》を取り上げた。また、廃絶曲の山田検校《葉隠》については、1809 年（文化 6）の歌本『吾嬬箏譜』に掲載されている歌詞に基づいて、四代萩岡松韻による復曲を行った。

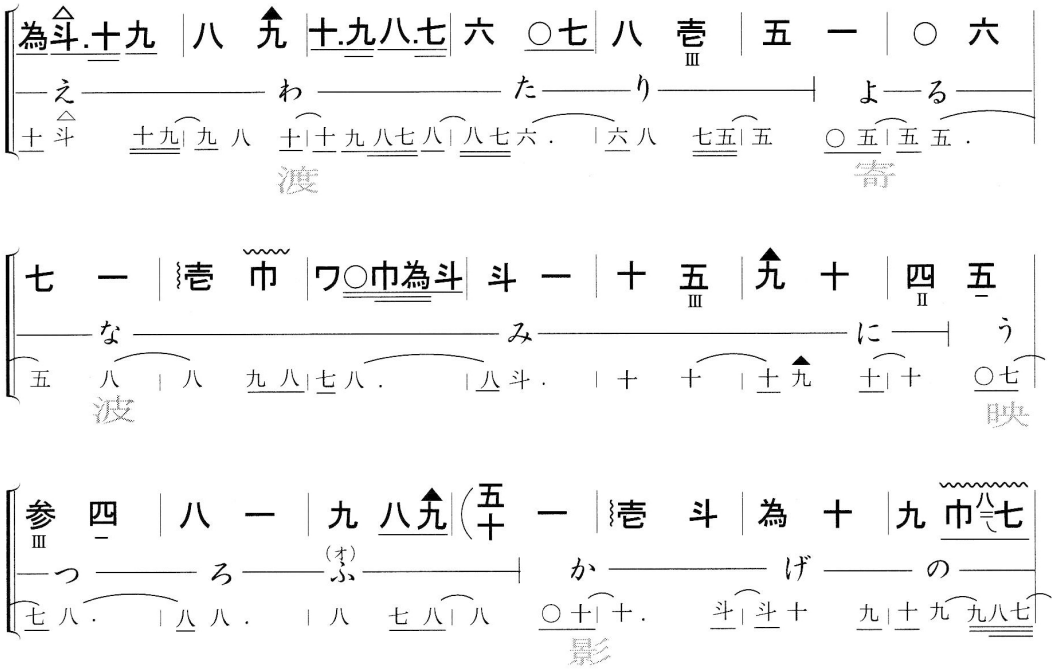
⑧については、令和 2 年 1 月 23 日に東京藝術大学の球形ホールにおいて、「邦楽の名人を聴く　その壱－三曲にみるレコードコンサート」を実施した。実施するにあたっては、東京藝大附属図書館に所蔵されるＳＰレコードの調査を行い、同館所蔵のＳＰレコードと研究代表者の萩岡松韻所蔵のＳＰレコードを、同館所蔵の「CHENEY」（1920 年頃）と「Apllon Standerd No.300」（1932 年頃）の蓄音機を使って鑑賞した。藝大所蔵のＳＰレコードには、1934 年（昭和９）の伊庭孝編纂『日本音楽史』（日本コロムビア蓄音機株式会社）も含まれている。また、貴重な歴史的音源として、1903 年（明治 36）のガイズバーグ・レコーディ

ングスのＣＤ復刻（『全集日本吹込み事始』東芝ＥＭＩ，2001）、1941～42 年頃に国際文化振興会が非売品として製作したＳＰレコードのＣＤ復刻（『Japanese Traditional Music: Koto・Shamisen　Kokusai Bunka Shinkokai 1941』World Arbiter、2011）の音源も活用した。

「邦楽の名人を聴く」と題するレコードコンサートの第１回としては、1800 年代の後半に生まれ、明治から昭和の前半期に活躍した三曲（地歌、箏曲、胡弓楽、尺八楽）の名人を取り上げた。鑑賞した主な名人は、以下の通りである。初世青木鈴慕、三世荒木古童、今井慶松、初世上原真佐喜、川瀬里子、初世川瀬順輔、菊原琴治、木谷壽恵、越野栄松、佐藤左久、佐藤正和、初世髙橋榮清、富崎春昇、初世中尾都山、初世萩岡松韻、初世福田栄香、宮城道雄、山口巌、山口四郎、山室千代子。楽曲としては、以下を鑑賞した。山口巌と松本秋水による《残月》、初世萩岡松韻の《初音曲》、今井慶松・五代山勢松韻による《新ざらし》、山室千代子・今井慶松・四世荒木梅旭（古童）による《長恨歌曲》、富崎春昇の《寛活一休》、菊原琴治の《茶碗》、初世福田栄香・三世荒木古童による《ゆき》、川瀬里子の《影法師》、横井みつゑ・佐藤正和による《千鳥の曲》、初世髙橋榮清・髙橋松子・鈴木光栄による《寿くらべ》、木谷壽恵・岸星甫・伊藤華子による《夜々の星》、初世上原真佐喜・髙橋清章・福城可童による《松風》、越野栄松・小野寺玉枝・初世藤井千代賀による《小督の曲》、初世中尾都山の《岩清水》、初世青木鈴慕の《虚空鈴慕》、山口四郎の《雲井調子》、宮城道雄・牧瀬数江の《根曳野松》、三世荒木古童の《一二三鉢返し》、初世川瀬順輔の《虚空鈴慕》、佐藤左久の《小夜砧》。歴史的音源を通して、それぞれの名人の特徴を検証し、鑑賞した。

なお、上記公演の続編である「邦楽の名人を聴く　その弐」を令和３年２月８日に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により延期となった。令和３年６月５日に延期公演を実施する予定である。

【図１】楽譜化の例（箏組歌の楽譜の一部分）



５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 萩岡松韻
２．発表標題 都の春、令和薫風、東獅子
３．学会等名 日本博「寿ぎの宴」「和の音色を継いで未来へ」ｐａｒｔ３
４．発表年 2021年

１．発表者名 萩岡松韻
２．発表標題 菊慈童
３．学会等名 日本三曲協会定期公演「第七回 日本の響 三曲に描かれる能楽の世界＜Ⅱ＞」
４．発表年 2021年

１．発表者名 長谷川慎
２．発表標題 飛驒組
３．学会等名 日本三曲協会定期公演「第七回 日本の響 三曲に描かれる能楽の世界＜Ⅱ＞」
４．発表年 2021年

１．発表者名 野川美穂子
２．発表標題 配信動画における楽曲解説
３．学会等名 日本三曲協会定期公演「第七回 日本の響 三曲に描かれる能楽の世界＜Ⅱ＞」
４．発表年 2021年

１．発表者名 萩岡松韻・野川美穂子・長谷川慎
２．発表標題 明烏、めぐり逢せ、初若菜
３．学会等名 萩岡松韻の世界Ⅳ
４．発表年 2019年

１．発表者名 萩岡松韻・久保田敏子・野川美穂子・長谷川慎
２．発表標題 花暦、夏やせ、復曲「葉隠」、弓八幡
３．学会等名 萩岡松韻の世界Ⅴ
４．発表年 2019年

１．発表者名 萩岡松韻・久保田敏子・野川美穂子・長谷川慎
２．発表標題 SPレコードに残る邦楽の名人
３．学会等名 邦楽の名人を聴く　その壱
４．発表年 2020年

１．発表者名 萩岡松韻、野川美穂子、長谷川慎
２．発表標題 新七草、　花妻、播磨八景
３．学会等名 レクチャーコンサート「萩岡松韻の世界」～古曲を聴くII～
４．発表年 2018年

１．発表者名 萩岡松韻、久保田敏子、野川美穂子、長谷川慎
２．発表標題 曲水、布袋、芙蓉峰
３．学会等名 レクチャーコンサート「萩岡松韻の世界」～古曲を聴くIII～
４．発表年 2019年

１．発表者名 萩岡松韻
２．発表標題 小督曲、夏、雪の松島
３．学会等名 NHK邦楽百番
４．発表年 2018年

１．発表者名 萩岡松韻
２．発表標題 小督曲、夏、雪の松島
３．学会等名 NHK初春の調べ
４．発表年 2019年

１．発表者名 萩岡松韻、久保田敏子、野川美穂子、長谷川慎
２．発表標題 言葉質、落梅
３．学会等名 第2回古態の楽器による地歌の会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 久保田敏子・野川美穂子	４．発行年 2021年
２．出版社 東洋書院	５．総ページ数 850
３．書名 地歌箏曲事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	久保田　敏子 (Kubota Satoko) (10090200)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・名誉教授 (24301)	
研究分担者	野川　美穂子 (Nogawa Mihoko) (50218294)	東京藝術大学・音楽学部・講師 (12606)	
研究分担者	長谷川　慎 (Hasegawa Makoto) (00466971)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	佐々木　千香能 (Sasaki Chikano)		
研究協力者	萩岡　由子 (Hagioka yuuko)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	三古谷　裕 (MIkoya Yu)		
研究協力者	朝香　麻美子 (Asaka Mamiko)		
研究協力者	設楽　千聡代 (Shitata Chisayo)		
研究協力者	伊藤　ちひろ (Ito Chihiro)		
研究協力者	山下　紗綾 (Yamashita Saaya)		
連携研究者	萩岡　未貴 (Hagioka Shouka) (10898886)	東京藝術大学・音楽学部・講師 (12606)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関